

はい 3 廃炉を知る



特集

廃炉作業の監視は何をしているの？

福島県では、原発事故以降、国や東京電力が進める廃炉に向けた取組が安全かつ着実に進むように、厳しく監視を行っています。

今月号では、本県における福島第一原子力発電所の廃炉監視の取組や昨年度の主な取組などをお伝えするとともに、4月から廃炉安全確保県民会議の議長に就任された福島大学 牧田実教授へのインタビューや今年度開催した会議の様子などをお伝えします。

福島県では
廃炉を厳しく
監視しています。



福島県の廃炉監視体制の概要

安全確保協定の概要

福島県及び
関係
13市町村



安全確保協定
締結



東京電力
(福島第一原発、
第二原発)

協定の主な内容

- 東京電力の責務と関係法令の遵守
- 必要な事項の通報連絡体制
- 自治体による立入調査等の権限付与
- 適切な措置の要求 など

原子力発電所の 廃炉等の実施に係る 安全確保協定

福島第一原子力発電所の廃炉に向けた取組を安全かつ着実に進め、周辺地域住民の安全確保及び敷地境界線量の低減による生活環境の回復を図ることを目的に平成27年1月に、県及び立地町(大熊町、双葉町)及び東京電力の3者で協定を締結しています。

廃炉に必要な施設等の新增設などに対する事前了解や自治体が技術的視点から安全面を確認する「安全確保技術検討会」の設置などを規定しており、福島県における廃炉監視の取組において、最も重要な取り決めとなっています。

※原発事故の影響が広範囲に及んだことを踏まえて、立地町以外の周辺市町村(11市町村)とも、協定を締結しています。また、福島第二原子力発電所においても、県、立地町(楢葉町、富岡町)の3者で安全確保協定が締結されています。



第8回 安全確保技術検討会(現場調査)の様子(R5.3.23開催)

3つの視点の 概要

県民の視点
廃炉安全
確保県民会議



専門家の視点
廃炉安全監視
協議会

現場の視点
現地駐在
(楢葉町)

専門家の 視点



学識経験者や行政職員が参加

福島県原子力発電所の 廃炉に関する安全監視協議会(廃炉安全監視協議会)



令和4年度第2回協議会の様子(R4.7.26開催)

【廃炉安全監視協議会とは】

廃炉作業等の安全監視を専門家の視点から行うために、平成24年12月に設置しました。会議や現場調査を通じて、廃炉の進捗状況を確認し、課題の指摘・確認を行っています。

令和4年度までの11年で計87回開催され、国・東京電力の廃炉の進捗などを厳しく監視しています。さらに特定の事項を議論するために①労働者安全衛生対策部会及び②環境モニタリング評価部会を設置しています。

①労働者安全衛生対策部会

廃炉作業に従事する作業員の被ばくや雇用の適正化、作業環境の安全確保への対策を確認しています。

②環境放射線モニタリング評価部会

県と東京電力が実施している福島第一原子力発電所周辺及び周辺海域のモニタリング結果等を確認しています。

構成メンバー

専門委員

19名を専門委員として委嘱
原子力工学やロボット工学、
地震工学などの学識経験者



行政

福島県+

13市町村

- いわき市 ●南相馬市
- 広野町 ●富岡町 ●大熊町
- 浪江町 ●飯館村 ●田村市
- 川俣町 ●楢葉町 ●川内村
- 双葉町 ●葛尾村



これまでの実績は
こちらから
ご覧いただけます。



県民の 視点



様々な分野から県民の代表が参加

福島県原子力発電所の 廃炉に関する安全確保県民会議 (廃炉安全確保県民会議)

【廃炉安全確保県民会議とは】

原発事故後、県民が廃炉に向けた取組の内容や進捗状況を知ることができる新たな仕組みを作るため、平成25年度に設置しました。

会議では県民の代表が、国や東京電力に直接意見をを行っているほか、会議の様子は本課YouTubeチャンネルでライブ配信しています。令和4年度までの10年で計51回開催され、専門家の目線とは違う視点から廃炉作業の監視を行っています。



令和4年度第4回 廃炉安全確保県民会議(現地調査)の様子(R5.3.22)

これまでの実績は
こちらから
ご覧いただけます。



現場の 視点



最前線で県職員が現地確認

現地駐在

県では、福島第一原発の廃炉に向けた取組等の確認体制を強化するため、平成26年4月から、楢葉町内に原子力安全対策課職員が4名常駐し、平日は毎日現地確認を行っています。また、トラブル発生時の迅速な情報収集を行うため、休日・夜間も現地確認ができるように体制を整えています。



現地確認を行う様子

日々の
活動状況は
こちらから
ご覧いただけ
ます。





今、知りたい、
ふくしまのこと。

福島第一原子力発電所の廃炉に向けたプロセス

廃炉を知る

Vol. 24



廃炉安全確保県民会議

令和5年度から議長に就任された 福島大学 牧田実教授に伺いました！

INTERVIEW

Q 牧田先生の研究分野や普段のご活動などを教えてください。

A 社会学とりわけ地域社会学が専門です。地域での自治やまちづくりを担う住民の主体的な活動とそれを制度的に保障するコミュニティ政策のあり方について、日本や外国の事例の調査をしています。社会的活動としては、県内のいくつかの自治体の審議会などの委員のほか、中間支援NPO(特定非営利活動法人ふくしまNPOネットワークセンター)の理事長も務めています。

Q 平成29年から本会議の学識経験者として、会議に出席いただきました。本会議に対するご意見・ご感想を教えてください。

A 県民会議には、関係13市町村の住民代表と各種15団体の代表が集っていますが、各選出母体からの宛職としてメンバーになる人がほとんどです。また、会議は廃炉作業をめぐる専門的・技術的な説明と質疑が中心で、素人には意見を出しにくいという現実があると思います。これを少しでも変えたいと思っています。今年から有志による事前勉強会が始まりましたが、とてもいい試みだと思います。

Q 廃炉安全確保県民会議に求められる役割について、牧田先生のお考えを教えてください。

A 原点に戻れば、県民会議の目的は、東京電力と国による廃炉の取り組みが



「安全かつ着実に進むよう県民の目で確認していくこと」(設置要綱)にあります。このためには、東電や国にわかりやすい説明を求め、メンバー諸氏が県民の代弁者として、質問や意見・要望を出しやすい会議の運営に努めなければならないと思っています。

Q 福島第一原子力発電所の廃炉に向けた取組が、県民や国民の理解のもと、安全かつ着実に進められるために重要だと考えることを教えてください。

A いま取り組まれている廃炉は、人類史上初めてとっていい難事業です。ひとたび事故があれば、再び過酷な事態を招きかねません。「安全かつ着実に」というのは純粋に技術の問題だと思われがちですが、そうではありません。健全な外部の目によるモニタリング(監視)が必要です。また「県民・国民の理解」を得るためには、東電や国にとって都合の悪い情報もすべて公開し、「結論ありき」ではない議論を喚起し、愚直に取り組んでいただかねばなりません。県民会議がそうしたモニタリングと情報公開の場として機能することが大切だと思っています。



原子炉格納容器内の損傷などについて検討

第88回廃炉安全監視協議会

5月23日

専門家の視点

県庁で開催された今回の協議会では、福島第一原発1号機の原子炉格納容器内部のペDESTAL*1の内壁が全周にわたり損傷していることについて、耐震性評価の進め方、起こりうる様々なリスクとその対応について確認したほか、日本海溝津波*2に備えた防潮堤工事の進捗状況などの確認を行いました。



出席者からは、調査結果に基づいて、ペDESTALの耐震性の再評価を求める意見や今後の燃料デブリ取り出し作業への影響を懸念する意見がありました。また、耐震性の評価などについて、県民に向けて分かりやすい情報発信を行うべきなどの意見がありました。

*1 原子炉圧力容器を支える土台のこと
*2 日本海溝・千島海溝沿いで発生する可能性が指摘されている巨大地震による津波のこと。

当日の資料や
開催結果等は
こちらから
ご覧いただけます。



議長まとめ

- ペDESTALの損傷は、不安を感じている県民も多いため、速やかに耐震性・健全性を評価し、様々なリスクを想定した措置を講じること。あわせて、県民に対する分かりやすい情報発信をすること。
- ALPSスラリー*の脱水設備を計画されている2026年度に設置を完了させるとともに、作業員の被ばく低減対策や被ばく線量の適切な管理をすること。
- 放射性廃棄物の屋内保管施設の整備に向けて、安全かつ着実に取り組むこと。
- 日本海溝津波防潮堤工事を着実に進め、ハード面やソフト面の津波対策について、分かりやすく情報発信をすること。

*ALPS処理の過程で発生する液体と固体の混ざった泥状の放射性廃棄物。



昨年度の現地確認の様子をレポート

楢葉町現地駐在の活動

令和4年度

現場の視点

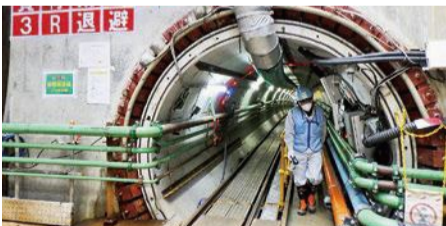
楢葉町に常駐している県原子力安全対策課楢葉町駐在は、平日は毎日、福島第一原発の現地調査を行い、廃炉作業の進捗状況やトラブルの再発防止対策などを確認しています。

今回は、昨年度の主な現地確認の様子をご紹介します。

【令和4年10月13日(木)】

ALPS処理水希釈放出設備及び関連施設設置工事の状況確認

ALPS処理水希釈放出設備設置に伴う、放水トンネル、関連設備の設置状況及びALPS処理水の移送配管の設置状況について、現場の確認を行いました。



放水トンネル内部を確認する駐在職員



ALPS処理水移送配管

【令和4年12月13日(火)】

3号機使用済燃料プールの制御棒等高線量機器取り出しの状況確認

福島第一原発3号機の使用済燃料は取り出しが完了していますが、制御棒*など高線量の機器類が保管されているため、令和5年3月から搬出作業が行われています。(令和7年度まで行われる予定)

12月の確認では、クレーンの遠隔操作による作業状況の確認を行いました。

*制御棒…原子炉の出力を調節する金属製の機器。



機器取り出し用クレーンの遠隔操作を確認する様子



使用済燃料プールのクレーンの様子



ALPS処理水や廃炉の進捗状況などについて意見

令和5年度 第1回廃炉安全確保県民会議及び勉強会

6月13日(火)

県民の視点

福島市内で開催された今回の会議では、主にALPS処理水及び福島第一原発の廃炉の進捗状況等について、資源エネルギー庁、東京電力及び原子力規制庁から説明がありました。

会議の構成員からは、ALPS処理水の海洋放出に伴う風評を懸念する意見や廃炉の工程がどのように進んでいるのか分かりにくいとの意見がありました。

資源エネルギー庁・東京電力・原子力規制庁は、構成員から出された意見に対して、しっかりと対応していくと回答しました。また、会議前に開催された勉強会では、廃炉の現状や課題等について、出席者に説明を行いました。

当日の資料や
開催結果等は
こちらから
ご覧いただけます。



勉強会の様子



東京電力に対して質問をする構成員

議長まとめ

- ALPS処理水の問題は、風評の問題が大きい。国内外に向けてしっかりと情報発信を行って欲しい。
- 廃炉の取組について、説明が難しいことが多いと思うが、長期的な見通しや全体的な見取り図を示していただき、今どの地点にいるのか等について、分かりやすい説明をお願いしたい。